

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施 自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために令和7年度に 実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和6年度におけ る取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標 （アウトカム）	目標の達成度を 測る指標	現 状 の 数 値	単 位	本 年 度 の 目 標 値	本 年 度 の 実 績 値	アウトカムの達成度に関する評価・分析 （事業における成果、課題、改善点等）	
佐倉市	②学校と地域の 課題	高校・特別支援 学校における地 域連携の強化	学習支援等について、現在は、 学校教員が中心となり行っており、 長期的な学習期間の確保が 難しい状況である。	地域の高校生、大学生、教員OB等との連 携により、市内小中学校の学習支援等を実 施する。	令和6年度に開始した左記の取り組みについて、 取り組みを行う学校数を増加させる。	学習支援等の実施体制を構 築している学校数の増加	学習支援等の実施体制 を構築している学校数	6	校	10	16	4	学校側に本活動の理解が広まったこと、地域学校協働活動推進員、協働活動リーダーの配置数が増え、学習支援活動等の目標以上の学校で実施ができた。教員の負担軽減に寄与し、働き方改革につながった。
佐倉市	②学校と地域の 課題	高校・特別支援 学校における地 域連携の強化	地域の小中学校の児童生徒が、体験活動に参加できる機会が 少なくなっている。	地域の高校等と連携し、市内小中学校を対 象とした、体験授業、体験教室等を実施す る。	令和6年度に開始した左記の取り組みについて、 実施回数を増加させる。	地域の高校との連携による 市内小中学校を対象とした 体験授業、体験教室等の実 施回数の増加	地域の高校との連携に よる市内小中学校を対 象とした体験授業、体験 教室等の実施回数	2	回	4	4	3	高校側、小中学校側の双方にメリットがある活動を実施することができた。ただ、実施に至るまでの学校間の調整等に時間を要し、頻回に実施できるものではないため、実施内容の質の向上に努めていきたい。